キョウニン

生薬の性状の項を次のように改める.

生薬の性状　本品は偏圧した左右やや不均等な卵形を呈し，長さ 1.1～1.8cm，幅 0.8～1.3cm，厚さ 0.4～0.7cm である．一端は鋭くとがり，他の一端は丸みを帯びてここに合点がある．種皮は褐色で，外面にはすれて落ちやすい石細胞となった表皮細胞があって，粉をふいたようである．また，合点から多数の維管束が種皮全体に分枝しながら縦走し，その部分はややくぼんで縦じわとなっている．温水に入れて軟化するとき，種皮及び白色半透明の薄い胚乳は子葉からたやすく剥がれ，子葉は白色である．

本品はほとんどにおいがなく，味は苦く，油様である．

本品の表皮の外面を鏡検〈*5.01*〉するとき，維管束による隆起部上の石細胞の形状はほぼ一様で，有角性円形～楕円形を呈し，径 60～90μm でその細胞壁は均等に厚く，側面視では鈍三角形で，細胞壁は先端部で著しく厚い．

確認試験の項を次のように改める.

確認試験

（**1**）　本品に水を加えて突き砕くとき，ベンズアルデヒドのにおいを発する．

（**2**）本品をすりつぶし，その 1.0g をとり，メタノール 10mL を加え，直ちに還流冷却器を付け，水浴上で 10 分間加熱し，冷後，ろ過し，ろ液を試料溶液とする．別に薄層クロマトグラフィー用アミグダリン 2mg をメタノール 1mL に溶かし，標準溶液とする．これらの液につき，薄層クロマトグラフィー〈*2.03*〉により試験を行う．試料溶液及び標準溶液 20μL ずつを薄層クロマトグラフィー用シリカゲルを用いて調製した薄層板にスポットする．次に酢酸エチル／メタノール／水混液(20：5：4)を展開溶媒として約 10cm 展開した後，薄層板を風乾する．これに紫外線(主波長 365nm)を照射するとき，R_f 値 0.7 付近に青白色の蛍光を発するスポットを認める．また，噴霧用チモール・硫酸・メタノール試液を均等に噴霧し，105℃で 5 分間加熱するとき，試料溶液から得た数個のスポットのうち 1 個のスポットは，標準溶液から得た赤褐色のスポットと色調及び R_f 値が等しい．